

## II. 平成 20 年度砂防学会研究発表会要領

### 1. 発表者の資格

砂防学会員に限ります(ただし、グループでの発表の場合は、代表者が会員であることが必要です)。

注：原則として、発表者一人あたりの発表件数は一件とします(なお連名の場合はこの限りではありません)。

### 2. 発表内容

土石流、山崩れ、表面侵食、地すべり、地震や噴火に起因した土砂流出等の土砂災害およびそれらの防止工事、斜面緑化、森林水文、森林が土砂流出に与える影響、土砂災害減災と生態系保全、砂防の社会的評価に関するもので、原則として学会等に未発表のものに限ります。

### 3. 発表方法

テーマ別セッションおよび一般口頭発表は、パソコン接続のプロジェクトのみで行います。発表者は、USBメモリかCDにパワーポイント形式でファイルを格納して持参してください。パソコンを持ち込まれても構いません。OHP およびスライドは使用できません。パソコンのOSはwindows XPです。発表前に会場のパソコン等で動作確認しておいてください。ポスターセッションの発表方法については、次号の学会誌(Vol. 60 No. 6(275))にてアナウンスします)

### 4. テーマ別セッション

平成 20 年度研究発表会においては、一般口頭発表並びにポスターセッションの他に、以下の 4 課題のテーマ別セッションを設定いたします。

注：テーマ別セッションでは、発表論文を募集せず、コーディネーターがセッション形式、発表者などを決めることとします。

#### 1) 海外での砂防研究とこれからの国際交流

コーディネーター：眞板 秀二(筑波大学)

セッションの趣旨：

海外における砂防研究は国レベルでの情報交換あるいは技術移転、大学・研究機関レベル、個人レベルでの共同研究など様々な形で行われてきています。相手国も米国はじめ、ヨーロッパの各国、また、中国などの東アジア、インドネシアなどの東南アジア、ニュージーランドなどのオセアニア、イランなどの中近東と環太平洋を中心に世界各国にわたっています。さらに、土砂災害は自然現象のみならず、社会経済条件が複雑に絡むため、その有り様は極めて複雑です。日本の砂防が SABO として世界に認知されるためには、それぞれのレベルでそれぞれの国で行われてきた砂防研究をお互いに披瀝し、相互に検討す

る事が大切だと思います。また、ここでの検討は、これからの国際研究の道筋を示すことになるでしょう。皆さんの積極的な参加を期待します。

#### 2) 気候変動と土砂災害

コーディネーター：地頭園 隆(鹿児島大学)

セッションの趣旨：

近年、異常とも思える降雨強度の大きな豪雨の発生頻度が増加しています。平成 9 年～18 年における時間雨量 100 mm 以上の降雨の年平均発生回数は、それ以前の二倍以上に増えており、気候変動による影響が、益々懸念されます。そのような降雨による近年の土砂流出現象、土砂災害の実態を整理し、近年の雨の降り方の変化実態(特に山間地)、その観測と降雨予測の手法、土砂災害の警戒避難基準雨量の設定手法、平成 17 年から提供され始めた「土砂災害警戒情報」の有効性と問題点、警戒避難時の情報伝達手法、緊急時における避難行動などの問題点と今後のあり方について議論します。

#### 3) 火山災害から「命」を守る

コーディネーター：竹内 正信(国土交通省)

セッションの趣旨：

学会活動として土砂災害を考える際には、ともすれば、メカニズムの解明や対策工としての構造物についての工夫などに目が向かいがちのように思われます。しかし、実際の防災の場においては、被災者ともなる住民の行動が極めて重大な意味を持ちます。

本セッションにおいては、人的被害の軽減のために住民の立場に必要なことは何か、という視点で、近年、各地で活発な活動が報告されている火山を対象に、情報、社会、住民啓発等の幅広い切り口で人的被害軽減についてシンポジウム形式で議論を行います。

#### 4) 自然環境と国土保全の調和

コーディネーター：菊池 俊一(北海道大学)

セッションの趣旨：

地域スケールで生じる「環境問題」が新聞紙上で賑わっています。それらは、日常生活的な時空間スケールにおける人間的繋がりである「地域社会」と、多様な要素が複雑に絡まり合ったシステムである「自然環境」の関わりから生じる問題です。元来、両者は調和を持って存立してきましたが、なにかの要因によりバランスが崩れた時、問題・課題が浮きあがってくるのだと思われます。セッションでは地域社会の持続的存立と自然環境の保全に関わる各地の実例・課題をみながら、両者の調和を再生するには何が必要なのか、何ができるのか等を考えて

みたいと思います。

## 5. 発表申し込み

次の①から⑥を e-mail もしくはハガキにて、平成 20 年 1 月 30 日(水)まで(厳守)に、下記まで送付してください(極力、e-mail でお願いします)。

送付先：〒060-8589 札幌市北区北 9 条西 9 丁目  
北海道大学大学院農学研究院流域砂防学研究室

山田 孝

e-mail : h20sabo@agr.hokudai.ac.jp

### ①研究発表題目

### ②発表内容を示すキーワード(5 つ)

### ③発表を希望されるセッション(下記から第 1 希望、第 2 希望を選んでください)

土砂流出、土石流、雪崩、水文、環境砂防、構造物、地震、斜面崩壊、流木災害、緑化・斜面安定、地すべり、森林管理、警戒・避難、火山地域での土砂災害対策、砂防計画、砂防事業、治山、施工管理、その他( )

### ④ 発表形式(下記のいずれかの形式をお選び下さい)

- a. 一般口頭発表
- b. ポスターセッション
- c. どちらでもよい。

注：発表全体の構成からご希望に添えない場合もあります。

### ⑤ 発表者と共同研究者の所属および氏名(連名の

場合は発表者の先頭に○印を付けて下さい)

### ⑥ 連絡先の住所、氏名、電話番号、ファックス、電子メール

## 6. 概要集掲載原稿の提出期限

平成 20 年 4 月 7 日(月)(厳守)

注：印刷の関係上、提出期限以降は受け付けません。

注：ポスターセッションによる発表についても概要集掲載が必要です。

## 7. 平成 20 年度(社)砂防学会研究発表題目

研究発表会の一般口頭発表ならびにポスターセッションにお申し込み頂いた題目およびテーマ別セッションの題目は、下記の学会ホームページでご確認いただけます。

<http://www.jsece.or.jp/event/conf/2008/index.html>

掲載されている題目の一覧はセッション割を示すものであり、発表順を示すものではありません。最終的なプログラムは原稿提出期限後に決定し、4 月中旬までに同ホームページに掲載しますので、発表の日時、会場をご確認下さい。

## 8. 概要集原稿提出先および研究発表要領に関する問い合わせ先

〒060-8589 札幌市北区北 9 条西 9 丁目 北海道大学大学院農学研究院流域砂防学研究室 山田 孝

Tel/Fax : 011-706-2529(直通)

E-mail : h20sabo@agr.hokudai.ac.jp